

Inabeな人々

GCI 連動企画

いなべで自らの暮らしを
生み出す人々を紹介します。



羽場典子さん (いなべフェアトレードタウン会長)

「フェアトレード」という言葉をご存知だろうか。フェアトレードとは、発展途上国の生産物を適正な価格で継続的に購入し、弱い立場の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す支援活動で、世界中に広がっている。

羽場さんは2018年5月に友人らとともに市民団体を立ち上げた。イベントへの参加や地域への働きかけを通して、市内にフェアトレードの考えを広めてきた。その努力が実を結び、いなべ市は2019年9月23日に全国で6番目のフェアトレードタウンに認定された。団体の立ち上げから認定までの期間は日本最短で、フェアトレード関係者から注目されている。

フェアトレードで地域活性化を

結婚を機に北勢町阿下喜に引っ越した羽場さんは、独居老人が増え、シャッター街化していく商店街を見て、地域の未来に不安を覚えた。そんななか、ミャンマーでNPO活動をした際、フェアトレード運動をしている人々と関わった。「発展途上国を支え、地域の活性化も促せるフェアトレードタウンにいなべ市もなればいいな」と思った。

フェアトレードの普及に向けて

現在の活動内容は主に3つ。1つ目は、地域の若者にフェアトレードを知ってもらうこと。地元の高校で授業を行ったり、小学生を対象に図書館でイベントを開いたりした。2つ目は、地元の企業や店舗にフェアトレード商品を普及させることだ。企業での出張販売や、企業主催イベントでの物販などを行っている。3つ目は、他市町との交流。自分たちの活動を伝えることでフェアトレードタウンを目指す人が増え、いなべ市を知ってもらえると嬉しいと話した。

「若いころは名古屋が好きで、よく遊びに行っていたんですけど、名古屋からいなべに帰ってくる感じが平成から昭和にトリップするみたいでとても好きだった」と話す羽場さん。高速道路が整備されているなど恵まれた環境にありながらも、昭和っぽさを残したまま発展してほしいと願う。フェアトレードの商品を普及させ、地域内の交流を増やし、阿下喜の商店街を再び栄えさせたいという大きな夢を持っている。彼女は令和の時代を切り開くリーダーとなるだろう。



1. いなべ市がフェアトレードタウン認定を受けた記念式典。フェアトレードに賛同している多くの会員と活動中
2. 地元店舗とコラボしたフェアトレードの菓子 3. フェアトレードマーケット



生活情報
[まいめる]



携帯用
[モバイルサイト]

救急医療情報

- 三重県救急医療情報センター T 059-229-1199
- いなべ医師会(在宅当番医) H <http://inabe-med.or.jp/>
- 医療ネットみえ H <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/>

人口情報(令和2年9月1日現在)

総人口: 45,503 (-41)
世帯: 18,706 (-8)
男: 23,320 (-15) 女: 22,183 (-26)

